



「ふるさとの水辺環境を守る会」は、本市の「水辺環境保全都市宣言」に伴って平成16年に発足し、約15年にわたり市内の水辺の環境に関する啓発・調査・保全の実践活動に取り組んでいます。

今年2月に、市内10カ所の海岸で世界的な問題となっている海洋プラスチックごみ（特にマイクロプラスチック）などによる海洋汚染を調査しました。

調査の結果は、外国から漂着したごみもありましたが、レジ袋、ペットボトル、洗剤や菓子の個包装、発泡スチロールトレーなどの生活ごみが多数を占めており、私たちが使っていたプラスチックごみなどが原因で、海洋汚染や環境破壊に大きく影響を及ぼしていることが分かりました。

今回の調査について、同会会長の河野幸子さんにお話を聞きました。

● 今回の市内海岸の環境視察研修を通じてどう思われましたか？

今回初めて海岸環境の視察研修をボランティアの方などを含めて10名で行いました。当初は海洋汚染の調査のみの予定でしたが、想像以上にごみの量が多くて、ほったらかしにできず、調査を行いながら皆さんと一緒にできるだけ拾いました。すべては拾いきれませんでした。特に普段私たちが利用している生活ごみが海岸環境に大きく影響を及ぼしていることを改めて実感

その5 串間市内の水辺環境を守っている「ふるさとの水辺環境を守る会」

「ふるさとの水辺環境を守る会」は、本市の「水辺環境保全都市宣言」に伴って平成16年に発足し、約15年にわたり市内の水辺の環境に関する啓発・調査・保全の実践活動に取り組んでいます。

今年2月に、市内10カ所の海岸で世界的な問題となっている海洋プラスチックごみ（特にマイクロプラスチック）などによる海洋汚染を調査しました。

調査の結果は、外国から漂着したごみもありましたが、レジ袋、ペットボトル、洗剤や菓子の個包装、発泡スチロールトレーなどの生活ごみが多数を占めており、私たちが使っていたプラスチックごみなどが原因で、海洋汚染や環境破壊に大きく影響を及ぼしていることが分かりました。

今回の調査について、同会会長の河野幸子さんにお話を聞きました。

● 今回の市内海岸の環境視察研修を通じてどう思われましたか？

今回初めて海岸環境の視察研修をボランティアの方などを含めて10名で行いました。当初は海洋汚染の調査のみの予定でしたが、想像以上にごみの量が多くて、ほったらかしにできず、調査を行いながら皆さんと一緒にできるだけ拾いました。すべては拾いきれませんでした。特に普段私たちが利用している生活ごみが海岸環境に大きく影響を及ぼしていることを改めて実感



ふるさとの水辺環境を守る会 会長 河野 幸子さん



本城 (崎田)



都井 (窓ヶ浦)



視察研修の様子

させられました。

● 海洋汚染を防ぐために、市民の皆さんにどのようなことを意識してほしいですか？

使った後のごみを安易な気持ちでポイ捨てをすると、風に吹かれて最終的には海にたどり着いて環境を壊していることをイメージしてほしいですね。環境を壊しているのは私たち人です。地球目線で、ごみを最後まで責任を持って管理することを意識していただきたいです。「1人の100歩より、100人の1歩」。1人で頑張るより、皆さんで少しずつ協力しあって自然環境を守っていきましょう。

● 今後どういった活動をしていきたいですか？

市内の他の水辺環境の調査を継続して行って、その現状について講演などを通して広く啓発をしていき、水辺環境を守っていく気持ちをさらに育てていきたいです。また、ボランティアなどの方々と連携しながら、今後は海岸清掃を行っていき、串間の雄大な自然環境を守っていく活動をさらに展開していきたいです。

その4

家庭でできるごみ減量への取り組み！ 4Rを実践しましょう！

AQ 4Rとは？

- ① Refuse (リフューズ)：いらない・断る
- ② Reduce (リデュース)：使う資源やごみの量を減らすこと
- ③ Reuse (リユース)：ものを繰り返し使う
- ④ Recycle (リサイクル)：使い終わったものを資源として再び

利用すること

の4つのRの総称であり、宮崎県が推進している取り組みです。ごみができるだけ減らしてごみの焼却や埋め立て処理による環境への負担を少なくし、資源を有効的に繰り返し使う社会、いわゆる「持続可能な循環型社会」の形成に向けて、次のような4Rの取り組みをぜひ実践しましょう。

4Rの取り組み(例)

- Refuse (リフューズ)
 - 買い物の際はマイバックを持参し、できるだけレジ袋はもらわない
 - 安いからといって、必要以上に買わない
 - 過剰な包装は断る
- Reduce (リデュース)
 - 食料品は必要な分だけ購入し、作りすぎを減らす
 - シャンプーなどは詰め替え用の物を選ぶ
 - 紙タオルなどの使い捨て商品の使用を減らす
- Reuse (リユース)
 - フリーマーケットやリサイクルショップを利用する
 - 物をすぐには捨てず、修理などで長く使う
 - 不要となった衣類や家電製品などを、必要としている人に譲る
- Recycle (リサイクル)
 - リサイクルされた商品や地球に優しいエコマーク商品を積極的に使う
 - 市の分別収集に協力する
 - スーパーなどで行われている、ペットボトル、紙パック、トレーなどの拠点回収に協力する

その6

市内の学校でもごみについての学習を行っています。



6月30日、都井小学校の3、4年生が社会科の授業で日南市南郷町の黒潮環境センター・リサイクルプラザを見学しました。生徒らはまず、不燃ごみやペットボトル、缶、瓶類がどのように分別、処理されているのかを映像を見て学習しました。その後、実際に施設内を見て回り、ごみが次々に運ばれ分別作業が行われる様子をメモしながら真剣なまなざしで見学していました。



黒潮環境センター・リサイクルプラザを見学して

佐やピン、ペットボトルが大きな色などに感じてさらに3つ4つに分別されているのがすごいと思いました。

ごみの分別や圧縮など、たくさんのごみの処理の流れを知れてよかったです。



都井小学校4年生 井手 悠仁くん



都井小学校3年生 いわきり かほ 岩切 夏帆ちゃん